

乙 貞

第140号 通巻25巻 第1号

2005年5月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒 524-0212

守山市服部町2250番地

新所長就任の挨拶

津田前所長の後任として4月1日付けで所長に就任いたしました山本光男です。当埋蔵文化財センターは昭和55年11月に服部遺跡の発掘調査及び整理調査を契機に開館しました。その後、全国的にも注目されている下之郷遺跡や伊勢遺跡をはじめ、守山市内の遺跡の発掘調査や出土遺物の整理・保管、研究の拠点として機能してきました。また、埋蔵文化財の普及啓発事業の拠点でもあり、本年度をもって開館25周年を迎えました。

今年は隣接地においてサッカー場が開設されますが、四半世紀にわたりのどかな田園風景の中にとけこんでいた当センター周辺の環境も大きく変化することが予想されます。この機会に、一人でも多くの方々に当センターを利活用していただけるよう努力したいと思います。今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

掛樋臨時職員の挨拶

山本所長と同じく4月1日より臨時職員として勤務しています掛樋邦章です。守山市には文化財が多数残されており、古くから人々が暮らしていたことが分かります。多くの文化財を収納・保管している埋蔵文化財センターで仕事を通して、貴重な文化財に触れることができ喜びを感じています。埋蔵文化財センターへお立ち寄りの際は、気軽に声をおかけください。お待ちしております。

塚之越遺跡の調査

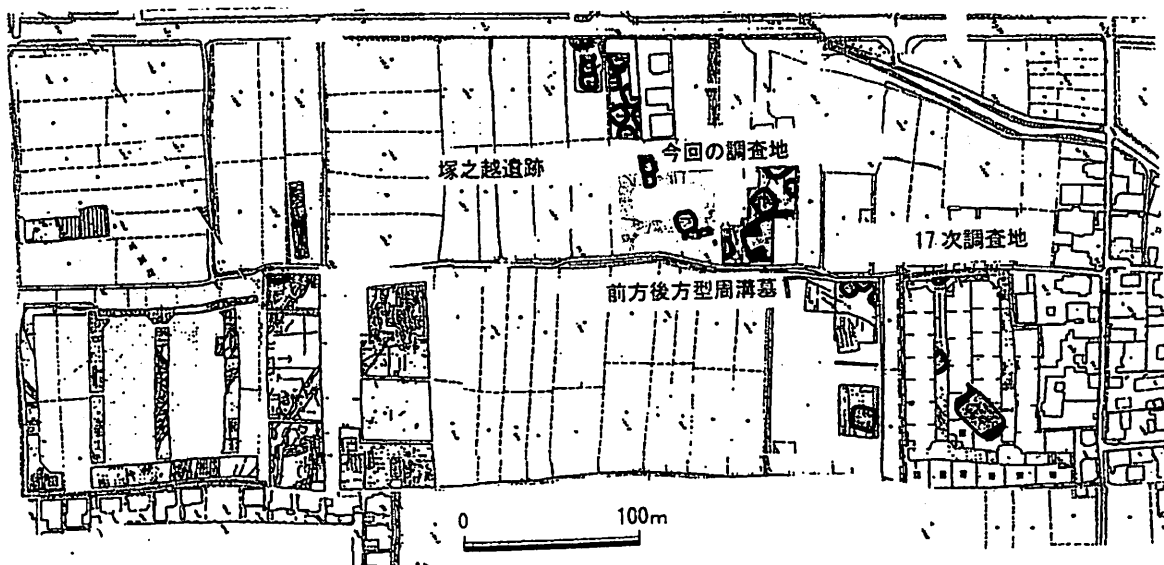
今年1月中旬から古高町字南塚之越において、宅地造成工事に先立ち発掘調査を行ってきましたが、4月末をもって終了しました。調査地周辺では弥生時代後期から古墳時代前期の方形周溝墓群が数多く検出されているほか、縄文時代のサヌカイト集積遺構や中世の集落跡が見つかっており、今回の調査でも縄文時代から中世の遺構が見つかるものと期待していました。調査の結果、縄文時代中期末の土坑、弥生時代後期～古墳時代初頭の方形周溝墓8基、平安時代の掘立柱建物ほったてばしらたてものなどが検出されたほか、サヌカイト集積遺構しゅうせきいこうが新たに1箇所発見されました。

縄文時代の遺構として、調査区東側で見つかった方形周溝墓(SX-5)の台状部しょうどこうで焼土坑

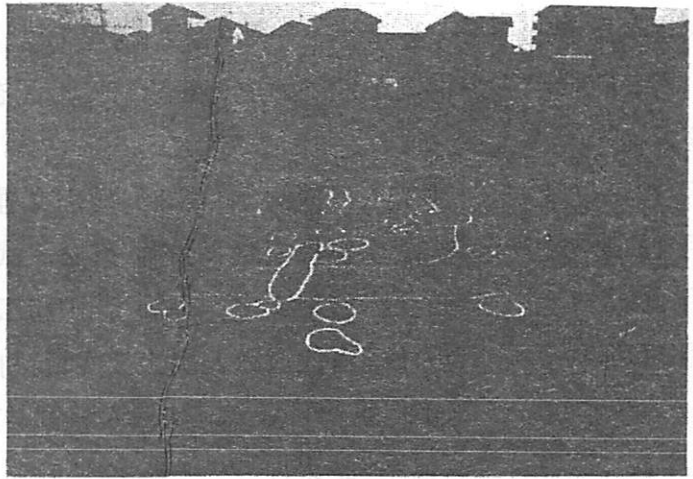
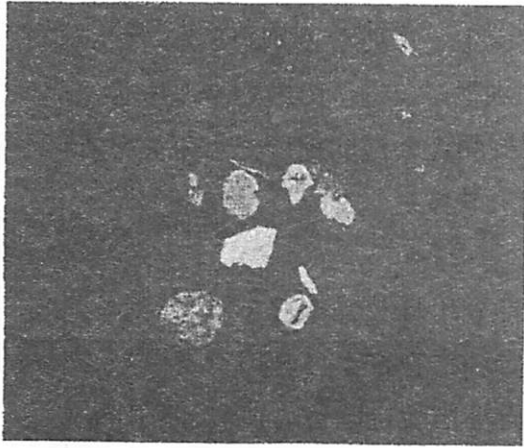
が5基みつかりました。直径約1m、深さ5cm程の浅い落ち込みに焼けた土が堆積していたもので縄文土器片が含まれていました。竪穴住居のような平面プランは明確に見られませんが、この場所で縄文時代の人々が火を焚いて生活していたことが想像されます。この焼土坑から南西へ約10m離れた浅い落ち込みから縄文土器がまとまって出土しました。縄文時代中期末の深鉢ふかばちが中心で、土器形式からみて北白川C式きたしらかわ（約4000～4500年前）と考えられます。縄文土器の中には中部高地～関東地方から持ち運ばれたとみられる有孔罎付土器ゆうこうつばつきどき（加曾利E式かそり）があり、東日本地域と交流があったことがわかりました。さらに、縄文土器が出土した場所から南西に約20m離れた地点では15点のサヌカイト片が集積された遺構が検出されました。この遺構の周辺では土坑や炉など明確な遺構はみられませんが、検出状況から縄文中期末の遺構と推測されます。隣接地で平成7年度に実施した調査でもサヌカイト集積遺構が見つっていますが、その周辺では明確な遺構は見られず、同様な傾向が認められました。

今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の方形周溝墓ほうけいしゅうこうぼが8基検出されました。一辺9mを測る大型の方形周溝墓（SX-5）が1基と他は一辺4～5mの小型のものが多いことがわかりました。塚之越遺跡では30基以上の方形周溝墓が造営されていますが、弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓は西から東へ向かって列状に順次造営されたと考えられます。古墳時代初頭にはやや離れた地点に前方後方周溝墓ぜんぽうこうほうしゅうこうぼが造られていて、その周辺に方形周溝墓が造営され弥生時代以来続いた周溝墓の列状配置が崩れていくことがわかります。塚之越遺跡は弥生時代末から古墳時代前期にかけて発達する下長遺跡の墓域と推測され、古墳時代の王が居住していたとみられる下長遺跡の内部構造を考える上で形や大きさによる階層差をもつ墓群の構成は手がかりになると思われます。

この他、平安時代の掘立柱建物が調査区南西側で4棟検出されました。柱穴は50～70cmほどの方形の掘方で、大きな建物であったとみられます。柱穴からは緑釉皿りよくゆうさらなどが出土しており、有力者層の屋敷地があったとみられます。（伴野）

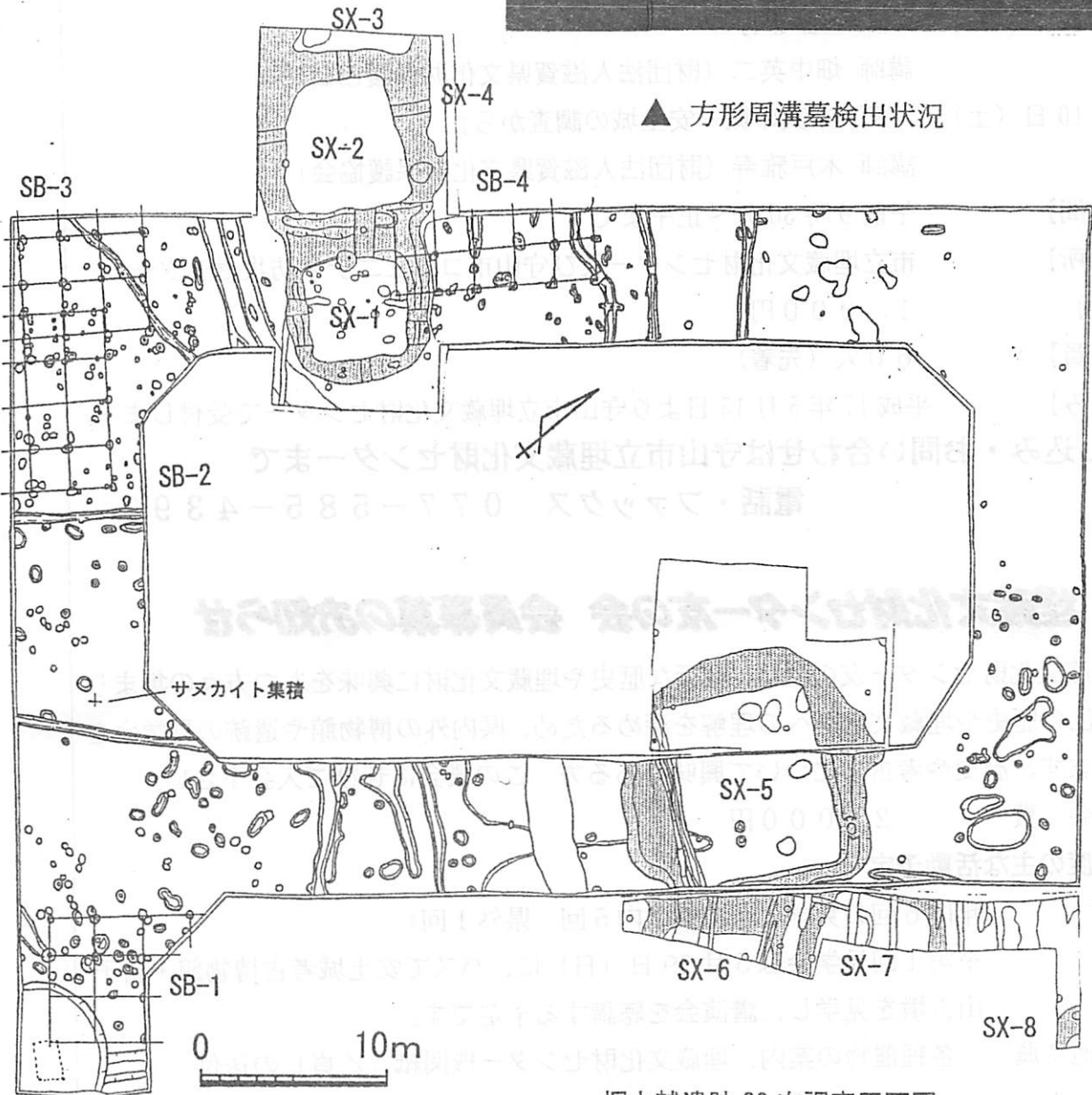


▲ 塚之越遺跡の墓群



▲ サヌカイト集積遺構

▲ 方形周溝墓検出状況



塚之越遺跡 20 次調査平面図

▲ 塚之越遺跡調査平面図

歴史入門講座生募集のお知らせ

近江は都に近く交通の要衝であることから、日本の歴史の中で重要な役割を果たしてきました。東西文化の接点として多数の人や物が往来する土地柄は、近江の歴史や風土の形成に大きな影響を与えています。今年の入門講座では、発掘調査の最前線にたつ研究者を迎え、縄文時代から中世にかけての遺跡を素材に近江を考えます。

【講座日程】

- 1 6月18日(土) 「縄文人の淡海学」講師 植田文雄(能登川町教育委員会)
- 2 7月16日(土) 「大岩山銅鐸の謎」講師 進藤 武(野洲市教育委員会)
- 3 8月20日(土) 「近江の渡来文化」講師 花田勝広(野洲市教育委員会)
- 4 9月17日(土) 「近江の古代遺跡と出土文字資料」
講師 濱 修(財団法人滋賀県文化財保護協会)
- 5 10月15日(土) 「信楽焼入門」
講師 畑中英二(財団法人滋賀県文化財保護協会)
- 6 12月10日(土) 「天下布武の城—安土城の調査から」
講師 木戸雅寿(財団法人滋賀県文化財保護協会)

【開講時間】 午前9時30分～正午まで

【開催場所】 市立埋蔵文化財センター及び守山市コミュニティ防災センター

【受講料】 1,000円

【募集人員】 60人(先着)

【申し込み】 平成17年5月15日より守山市立埋蔵文化財センターで受付します。

お申し込み・お問い合わせは守山市立埋蔵文化財センターまで

電話・ファックス 077-585-4397

埋蔵文化財センター友の会 会員募集のお知らせ

市立埋蔵文化財センター友の会は、身近な歴史や埋蔵文化財に興味をもつ方々の集まりです。近江の歴史や埋蔵文化財への理解を深めるため、県内外の博物館や遺跡の見学会を行っています。歴史や考古学について興味のある方、この機会にぜひご入会下さい。

年会費 2,000円

今年度の主な活動予定

年間6回の見学会(滋賀県内5回、県外1回)

※第1回見学会は5月29日(日)に、バスで安土城考古博物館・猪子山古墳を見学し、講演会を聴講する予定です。

その他特典 各種催物の案内、埋蔵文化財センター機関紙「乙貞」の送付

お申し込み・お問い合わせは守山市立埋蔵文化財センターまで